

蛙は廣いノ、紅い夕焼空を見上げながら「明日も天氣になーれ」ミカ一ぱいに鳴き續けてをりました。

をほり

佳作 『鼠さんの雪だるま』

山 本 ス マ

チュウ吉さんミチュウ子さんは可愛い、鼠の子供さんです。二人のお家は太郎さんのお家の
お二階にありました。お二階には小さなお窓がありました。小さなお窓からは何でも何でもそ
れはよく見えました。高い木でも、お空の雲でも、電線で遊んでゐる雀さんでも……。

ある晩チュウ吉さんは寢床へ入る前に、小さなお窓からお顔を出してお外を見て居りまし
た。お外は眞暗で何にも見えません。でも之中、眞暗なお空から白いものがひらひら落ちて
くるのが見えました。

「おやー雪かしらー」

チュウ吉さんはまあ面白いお眼々をくるくるさせ乍ら見て居りました。白いものはだんく澤
山になりました。

「雪だよ！雪だよ！チュウ子ちゃん！来てごらん」

ミチュウ吉さんは大きなお聲でチュウ子さんを呼びました。

「お兄ちゃんなあに」

チュウ子ちゃんは急いでやつて来ました。二人はもううれしくてうれしくてたまりません。
大きなお聲で

「大雪小雪 雪こんこ」

お屋根も お庭も 雪こんこ……」

さうたひはじめました。そのうち二人は眠くなつたので、お寢床へもぐり込んでぐつすりおねんねしてしまひました。

あくる朝、チュウ吉さんミチュウ子さんが起きて見ますさまあ大變、お屋根もお庭も眞白に雪が積つてゐます。高い木の枝はまるでお花が咲いた様、電線にだつてふはふはの雪が一杯なんです。

「素敵！素敵！」

二人は思はずお手々を叩きました。そして

「ねえ、お外へゆかうよ」

つて直ぐさまいつて見たんです。でもお母様が、

「ほら、お外ではまだ雪こんこが降つてゐるでせう。もう少しして止んでからになさいね」

ミ仰有るものですから少しの間お家にゐる事にしました。お炬燵にあたつて御本なんかひろげてゐましたけご、チュウ吉さんもチュウ子さんもお窓の方ばかり見てゐました。だつて雪こんこが止んだらお外へ出られるんですもの。

少し経つてから、お外の方でバンザイつてお聲がきこえました。チュウ吉さんもチュウ子さんも、びよこんミお炬燵からミび出して急いでお窓のミこ迄行つて見ました。もう何時の間にか雪は止んでゐます。お窓からのぞいて見ますミ、おやく、お家の太郎さんやお隣の次郎さんたちが、大きな雪だるまの前でバンザイをしてゐるんです。大きな雪だるまさんは大きなお顔に大きなお眼々でじつミこちらを見てゐます。

「おやーあれはなんだらうー」

チュウ吉さんは不思議さうにいひました。チュウ子さんだつて、お眼々をばちくりさせてゐる

ます。だつて二人も雪だるまなんか見たのはじめてなんですもの。

「いつて見ようよ」

「ええ、いつて見ませうよ」

「早速二人はかけ出しました。お二階のはしご段をトン／＼とかけ降りてお靴をはきました。お外に出るに、真白に光つてゐる雪の中にぼつんと大きなだるまさんが立つてゐるのが見えました。太郎さんたちはもうるません。大きな雪だるまはまん丸いお眼々をくる／＼させてこびらを見てゐます。

「ねえチュウ子ちゃん、なんだらう」

「さあ、なんかしら」

「大きなお眼々、僕こはいな」

「ほんごにこはいねえ」

二人はこは／＼そうつ／＼近づきました。雪だるまさんはやつぱり大きなお眼々をくるくるさせてゐます。

「兄ちゃん、でもちつとも動かないのね」

「チュウ子ちゃんが申しました。

「うんさうだなあ、ほんごに動かないね」

チュウ吉さんもチュウ子ちゃんも少しばかり安心しました。

「ぢやね、二人でもつ／＼そばへ行つて見ようか」

「ええ」

チュウ吉さん、チュウ子さんはそうつ／＼雪だるまさんの前へ出ました。そして

「小父ちゃん」

と呼んで見ました。でもチュウ吉さんもチュウ子さんも小さいし、お聲だつていつても小さいか

つたのでよくきこえません。雪だるまさんはやつぱりだまつて大きなお眼々をくるくくさせて
ゐます。二人は今度は大きなお聲で

「小父ちゃん!!」

きよびました。そのお聲に雪だるまさんはやつみ氣がつかしました。そして二人を見つめるこ
「なあんだ、ねづみさんか」

大きなお聲で申しました。チュウ吉さんは懸命に

「小父ちゃんは誰なの?」

つて尋ねました。雪だるまさんはいきなりあはははは笑つてから

「小父ちゃんはね、雪だるまさ」

つていひました。

「あゝさう、雪だるまさんなの?、だけご一體ごこから來たの?」

「あのね小父ちゃんはね、太郎ちゃんや次郎ちゃんたちがつくつてくれたの」

「へーえさう、小父ちゃんは作つて頂いたの?」

「うんさうだよ」

「だけご一人ぢやつまんないねえ。僕たちお友達を作つてあげようか」

「うん、そりや面白い」

こ小父ちゃんはさてもうれしさうです。

「だけごあたし、つくれるかしら」

こチュウ子ちゃんが心配さうにきよました。

「大丈夫さ」

チュウ吉さんは、もう大元氣、早速雪をころがしはじめました。ころくくくくくく。お
洋服もお頭も雪だらけ、でも平氣、ころくくくくくくくく、みるみる丸い雪の玉が出來てきま

した。

「チュウ子ちゃんはお頭を作るんだよ」

「えゝ大丈夫よ」

チュウさんも大元氣、ころくくくくくく、これもみるく中に丸くふくれてゆきま
す。

「さあもういゝよ。さつこいしよ」

「チュウ吉さんは丸い雪の玉を抱へて来て、大きな雪だるまさんのそばへおきました。チュウ
子さんご負けずにさつこいしよ、お頭がちあんご出来上りました。大きい雪だるまさんは又そ
れを見て

「あはゝゝゝゝ」

ご笑ひ出しました。だつて小さいチュウ吉さんごチュウ子さんが作った雪だるまですもの、そ
れはくく小さかつたのです。でも小父ちゃんは大喜び、

「ごうもありがたう」

つてお禮をいひましたよ。チュウ吉さんもチュウ子さんも大よろこび、

「小父ちゃん、お友達出来たからもつこ永いこころて頂載ね」

つてお願いしましたの。だけご小父ちゃんは

「うゝん」

ご一寸さびしさうなお頭をふりました。

「あゝちさうして？」

ご二人はびつくりしてきゝました。

「だつてね、もうすぐ暖いお日様が出ていらしたり雨こんご降つたりしたら、小父ちゃん
はね遠いお國へ行かなきやならないの」

「えつ、さうしてもゆくの？つまらないなあー」

二人は本當に困りました。だつて折角お友達になつたばかりですのにね。小父ちゃんは「だけさね、また來ますよ」

「えつ、いつ？」

「あのね、もうすぐ春が來てそれから暑い暑い夏が來て、それから一ぺんお正月が來てね、今日みたいに雪こんこが降つて來たら」

さいつて下さいました。それで二人は少し安心しました。

その晩二人がお寢床へ入つてからお外ではボツリ／＼雨こんこが降つて居りました。あくる朝起きたチュウ吉さんごチュウ子さんは、小さなお窓からのぞいて見てびっくり致しました。昨日眞白に積つてゐた雪がすっかり解けてゐるんです。お屋根もお庭も高い木も電線も、そして昨日お友達になつたばかりのあの大きな雪だるまの小父ちゃんも、二人でつくつてあげた小さな雪だるまさんも、みんな／＼なくなつてゐました。

「あゝ分つた」

二人は思はず手を叩きました。そして、

「雪だるまの小父ちゃん、小ちやな雪だるまさんと一緒に涼いお國へ行つちやつたんだよ」
つて申しました。

すつかり雪がなくなつた木の枝や電線では雀さんたちが楽しさうに遊んで居りました。もうすぐ春さんがやつてくるんでせうね。

おしまひ